

Ja-Net

October 2014 No. 71

季刊ジャネット

Ja-Net は Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーエーネットワーク

Contents 目次

2014 年 10 月 25 日発行

- View from the Other Side 3
池田アンナさん(ポーランド)
- あちこち日本語ご紹介〈国内編〉..... 4
東京都 足立区
- あちこち日本語ご紹介〈海外編〉..... 5
スリランカ ケラニヤ
- 教材紹介 6
『新完全マスター読解 日本語能力試験 N3』
『みんなの日本語 初級I 第2版 初級で読めるトピック 25』
- なんでも情報 BOX 8

巻 頭
寄 稿

多様な学びを実現するICT活用教育の可能性

—公立高校の授業事例—

永野 直

千葉県立袖ヶ浦高等学校



はじめに

2011 年、千葉県立袖ヶ浦高等学校に情報コミュニケーション科が新設され、今年3月には第1期生の卒業を迎えました。この学科では公立高校としては全国で初めて、全員が一人1台の iPad を自己所持し、校内のあらゆる教室で無線ネットワークが利用できる環境で学習しています。しかし、教育にデジタル技術を利用すること自体が目的だったのではありません。生徒に iPad を持たせる背景には、大きく2つの理由がありました。

①高度情報化社会への急速な変化

インターネットやコンピュータなど情報通信技術(以下 ICT)は急速に発展し、良くも悪くも我々の生活に大きな変化をもたらしました。ネットいじめや個人情報の漏洩、著作権や肖像権の侵害など、子どもたちが被害者となるばかりか加害者にもなり得るような問題が毎日のように報道されています。このような、いわゆるインターネットの「影」の部分への対策として、学校現場では携帯電話の「持込禁止」に代表されるように、ネットや情報機器から子どもたちを「遠ざける」ことで対処してきました。しかしスマートフォン等の急速な普及でわかるように、インターネットに接続されたコンピュータは、す

で子どもたちの日常生活に浸透しています。もはや見て見ぬ振りで済む時代は終わっており、児童生徒がネットリテラシー(活用能力)を身につけることは喫緊の課題です。

つまり、「危ないから使うな」から「危険から身を守り、どう防ぐのか」へ、さらに「ICT を生活や学びにどのように役立てていくべきか」について大人たちはもちろん、児童生徒たちの誰もが考えていかなければならない時代に来ています。そのためには、ICT を日常生活に関連させて考え、小さな失敗を繰り返しながら体験的、経験的に学ぶ必要があります。こうした、社会に出るまでに各自が適切に ICT を扱えるようになる環境が必要だと考え、私物として iPad を購入してもらうことにしたのです。この導入形態は BYOD (Bring Your Own Device)、私的デバイス活用と呼ばれ、ビジネス分野だけでなく教育界でも注目されつつあります。

②「学力」、「学び方」の変化

「日本の学力はもはやトップレベルと言えない」とは、2003 年に「生徒の学習到達度調査(PISA)」の結果を受けて文部科学省が出したコメントです。かつて日本は体系的な知識を教員が伝達するいわゆる「一斉授業」が大きな成果を上げ、高度経済成長を

支えてきました。ところが社会の高度情報化、多様化、国際化が進むにつれ、「既存の知識を知っているか」だけでなく「情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造する能力」や、「コミュニケーション能力」、あらかじめ決められた問題を解くだけでなく、「課題を発見・解決する能力」なども学力として重視されるようになってきました。

これらの新しい学力感、主体的な学びの実現に、ICT 機器は大いに役立ちます。つまり一斉授業だけでなく、生徒の多様な学びを実現するためのツールとして iPad を持たせることにしたのです。

授業事例

情報コミュニケーション科では、あらゆる授業で iPad を活用していますが、ここでは日本語教育に近い事例として、国語や英語など、主に語学の授業を中心に記します。

①古典に視覚的な要素を取り入れる(国語科)

古典というと文法の学習が中心で、興味が持てないという生徒が少なくありません。国語は確かに文字中心の科目であるかもしれませんが、実は視覚的な要素を多く含んでおり、ICT の活用に向いている教科と言えます。例えば、枕草子「木の花は」には『木の花は濃きも薄きも、紅梅』や『橘の葉の濃

く青きに』などの記述があります。ここに映像を取り入れるだけで生徒の興味関心は大きく変化します。「紅梅」といっても白に近い淡い色、赤に近い濃い色と様々な色があることや、「橘」を知らない生徒たちが、橘は柑橘類であることを知り、「濃い緑色の葉の中に、黄金のような鮮やかな実が見えるのが美しい」と著した清少納言の感性をより身近に感じることができます。画像は教員が用意するのではなく、生徒各自が分担して iPad で検索し、皆で共有します。また、単元の最後には、生徒が自分たちの「木の花」を紹介しました。家の庭や通学路などで目にした自分の好きな花の写真を iPad で撮影してきて、その花の「好きなところ、良いところ」を枕草子風に表現し、発表します。

語学において、文法だけでなく、ことばの「美しさ」について扱うこともまた重要であり、また各自がそれぞれに持つ感性を表現することで、価値観の多様性を学びました。

②読みや発音を記録する(英語科)

語学教育において、「音声」は非常に重要ですが、これらを「残す」ことはこれまでの授業で難しいものでした。そこで、「Evernote」というデジタルノートを用いて、生徒は iPad から自分の音声をノートに録音しています。生徒各自の「Evernote」には、文字はもちろん、写真や音声も保存することが出来ます。このノートを教員と共有することで、教員はいつでもどこでも生徒のノートにアクセスしてコメントを書き込むなどのフィードバックができます。

また、音読の宿題を自宅から提出させるなど、学ぶ場所や時間の制約を大幅に減少させることが可能となりました。

③ SNS で、授業の感想や疑問を共有

ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)を授業に利用することで、教員の一方的な知識の伝達でなく、クラス内で意見交換や共有をすることができます。本校では教育専用の SNS である「Ednity」を利用しており、ホームルームの連絡事項の伝達をはじめ、様々な授業で活用しています。授業中に質問や感想を iPad から書き込んだり、発表活動の後には互いに改善点をアドバイスしあったりもしています。

これらの活動は、今まで埋もれてしまいがちだった生徒の素朴な疑問や率直な意見を吸い上げ、クラス内で共有することが目的です。画面内だけのやりとりで終わらぬ



講義型の授業だけでなく、互いに教え合う、学び合う活動を多く取り入れている。

よう、書き込まれた多様な意見を授業中に取り上げ、口頭でのディスカッションに発展させます。

④自作動画教材の活用

近年「反転学習」というキーワードを耳にします。これまでの授業では、基礎的な知識を教室で一斉に講義し、発展的な内容については授業後に自宅等で個別に行う、という形式が一般的でした。対して反転学習は、基礎的な内容を自宅であらかじめ動画等で学習しておき、学校では「複数の人々で集うからこそ可能な、発展的な学び」を行う、という考え方です。アメリカの大学等で実施が進んでおり、日本でもタブレット端末の普及によって急速に関心が高まっています。すでに成果をあげている学校もありますが、「生徒が自宅で動画を見てこない」、「動画教材の作成が困難」などの問題も存在します。

そこで、本校では日常的に行うのではなく、反転学習的な要素をピンポイントで取り入れています。例えば理科の実験の前、家庭科の実習の前などに、実施手順の動画をあらかじめ家庭等で視聴してきてもらいます。動画を見てから実験、実習を行うと、「何の目的で、何をするのか」という課題意識があらかじめ明確になります。実際に、実験や課題にかかる時間は動画を利用しないクラスより明らかに短縮され、かつ評価も高くなりました。

もちろん、生徒の自宅学習や教員の動画教材作成が日常的にできれば理想的ですが、生徒や教員に敬遠されてしまうほどの負担がかからない程度に、出来る範囲から少しずつ実施していくのも効果的だと考えています。

おわりに

本科では画面の大きさ等の理由から iPad を利用していますが、デバイスの選択には多



テーマに沿ってプレゼンテーションする家庭科の授業場面。iPad で資料作成と提示を行う。

様性があります。例えばスマートフォンは、購入を強制したり促したりしなくとも、多くの人が所持しています。これをそのまま活用すれば、一人1台のデジタルデバイスを使って学ぶ環境はすでにほとんど整っている、と見ることもできます。経済面や時間等、多様な条件、多様な国々の生徒たちが学ぶ日本語学校において、ICTを活用した授業は大きな可能性があるのではないのでしょうか。

本科の授業は教科書やノートなど、これまでの教材教具や学習のあり方を否定するものではありません。紙、実物、対面での対話等アナログ的な要素を重視しつつ、デジタルで実現できる新たな学びの要素も取り入れていくことを念頭に置いています。デジタル機器を使った教育というと、何か冷たいイメージを受けるかもしれませんが、しかし、使い方によっては感性を引き出し、人と学び合い、あたたかな人同士のコミュニケーションをより深めることもできるのです。重要なのは、「これからの社会を生きる若者たちは何を、どうやって学ぶべきか」というビジョンを明確にし、生徒とともに実現していくことです。より豊かで創造的な学びを充実させるため、今後も生徒、職員全員で取り組んでいきたいと考えています。

永野 直 (ながの なおし)

1970年生。千葉県立袖ヶ浦高等学校教諭。地理の教員であったが、2003年に高等学校教科「情報」の新設とともに情報科の授業を担当するようになる。2009年から2年間の鳴門教育大学大学院への長期出張中に、教育におけるマルチタッチデバイスの活用について研究。2010年より袖ヶ浦高校へ赴任、「情報コミュニケーション科」を同校に新設し、一人1台のタブレット環境を公立高等学校で初めて実現した。「10年先の未来型学習の実現」に向け、ICTを特殊な技術としてではなく日常の道具として適切に扱い、社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成をめざしている。

学習者の目

View from the Other Side

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

日本語は難しくて、面白い

—大学でポーランド語を教えているアンナさんに聞きました

—日本語を勉強することになったきっかけを教えてください。

ポーランドで日本人の夫と出会い、2004年に来日しました。ポーランドでは普通に生活し働いていたのに、日本に来たら子どもになったようにコミュニケーションがとれなかったり、読み書きもできなかったりしたのはとても辛かったです。

最初はポーランドで買った教科書を使って家で日本語の勉強をしていました。それから、地域の日本語教室や東京外国語大学留学生日本語教育センターで勉強しました。そして2008年に日本語能力試験2級に、2009年に1級に合格しました。

—日本語を勉強していて、大変だったことは？

家族と話す時、お店の人がお客さんに話す時など、シチュエーションや場面によって、使う言葉や表現が違うのは難しいです。日本に来たばかりの頃、スーパーで買物をした時に、レジ係の人が商品を「トマトが一つ、人参が二つ」と声に出して確認していたのですが、自分に話しかけられているのだと思って、「すみません、もう一度お願いします」と言ってしまったことがあります(笑)。

また、日本語の発音はポーランド語のように強弱アクセントではないので、慣れるのに苦労しました。漢字は紙に何度も書いて、コツコツ覚えましたが、大変でした。

—日本で生活する中で、コミュニケーションの難しさを感じることはありますか。

はい、毎日のように感じます。その難しさの半分は私の性格のせいです。人見知りで、間違えてしまうとストレスを感じて、言葉が出なくなってしまうんです。そして日本人は外国人が話を少し理解できなかったり、つまずいたりすると、すぐコミュニケーションをあきらめるという傾向があると思います。あきらめるか、英語にするか、人によって違いますが、「外国人はどうせ日本語が



池田アンナさん

ポーランド、ザモシチ生まれ。マリー・キュリー大学 言語学部ポーランド語学科、発音矯正学科卒業。中学校教諭としてポーランド語を教える傍ら、看護学校で発音矯正士(日本の言語聴覚士のような職業)として、発音指導にあたった。2004年に来日。2006年より東京外国語大学ポーランド語学科講師。白水社『ニューエクスプレス ポーランド語』CDのナレーションを担当するなど、ポーランド語教材の制作に関わっている。趣味は読書、登山、映画鑑賞。日本食では寿司と懐石料理が好き。

話せない」と思われることが多い気がします。外国人とコミュニケーションをとることが大変なのはよくわかるのですが……。

—日本の好きなところはありますか。

山ほどあります。いちばんは美しい自然、特に山の景色と花が好きです。日本は桜だけでなく、紫陽花や金木犀のような季節を感じられる花がたくさんあって、大好きです。

日本に来て、沢山のいい出会いや生活に恵まれ、日本が好きになりました。東日本大震災があって、自分が日本は私の故郷だと感じていることに気がつきました。何があってもここにいたいです。

—ポーランド語を教えていらっしゃるんですよね？

東京外国語大学のポーランド語学科で教えています。ポーランド語の発音は難しいので、日本人の学生は苦労しています。一緒に発音の練習をして、学生が上手く発音できると、私も嬉しいんです。学生はみんな真面目で、ポーランドやポーランド語に対して、関心が高いのですが、大人しいので、授業に興味を持っているのか、時々心配になります。授業後のアンケートには良い感想を書いているのですが、ポーランド人は積極的に質問したり、意見を言ったりするので、かなり違います。

—ポーランド語教師の立場から見て、日本語はどのような言語だと感じますか。

日本語はプライベートを守れる言語です。「その日はちょっと」、「急用で行けません」という表現は、具体的なことを言わなくても済みます。例えば、日本語で「友達と出かける」と言うとき、相手の性別はわかりませんが、ポーランド語だと女の友達か男の友達かすぐにわかります。ポーランド語の名詞は男性、女性、中性に分類され、性別のない「友達」という言葉がないからです。

それから、面白いと感じるのはことわざです。ことわざは国民の知恵であると言われています。日本とポーランドは文化や歴史、宗教、気候など多くの違いがありますが、同じようなことわざがあるのです。例えば「時は金なり」や「火のないところに煙はたたない」などは全く同じです。もっと面白いのは共通の知恵が、違うたとえで表現されているものです。例えば、「郷に入っては、郷に従え」は「カラスの仲間に入ったら、カラスのように鳴くべきだ」、「一石二鳥」は「一つの火で二つの肉を焼く」と言います。最後にもう一つ、日本人もポーランド人も大事なことを知っています。それは「終わりよければ、すべてよし」です。



国内編

東京都 足立区



人材育成を通じ「共に生き、共に成長する」

一般財団法人海外産業人材育成協会 (HIDA)
日本語教育センター

武村ゆみ

一般財団法人海外産業人材育成協会(略称: HIDA)は、前身の財団法人海外技術者研修協会(略称: AOTS)の創立当初よりアジアを主とする開発途上国からの技術研修生を対象とした研修事業を行ってきました。これらの技術研修生には初歩的な日本語研修が必要であったことから私たちの日本語教育は始まりました。創立以来 55 年、日本で研修した研修生は既に 17 万 4 千人を超え、研修生が帰国後結成した同窓会は 43 ケ国 71 会となりました。同窓会は、現地で、セミナーや日本語教室を開設するなど、日本との経済・文化交流の架け橋として大きな役割を果たしています。グローバル化の進展や新興国の台頭等、時代が大きく変化する中で、産業界が求める人材や人材育成のニーズも変化し、HIDA が行う事業の幅も近年はますます広がっています。

HIDA の事業全体の中では日本語教育以外の事業の比率が増えてきていますが、どの事業においても「人材育成を通じ「共に生き、共に成長する」世界の実現を図る」という組織の大きなミッションの意義と責任は同じだと感じます。私達は学習者一人一人の成長や気づきを見守り、また、彼らからも多くを学ぶことを喜びとして日々の業務に取り組んでいます。

HIDA の日本語教育

HIDA の日本語教育の特徴と言えば、やはり現場の日本語教師が長年の試行錯誤からそのノウハウをまとめ上げた『新日本語の基礎』シリーズの教材群であり、イラストやビデオ等の視聴覚教材を駆使した初級の教授法です。『新日本語の基礎』は発売後間

もなく、他の日本語学校や日本語教室でも使われるようになり、国外でも同窓会の日本語教室等から、さらに多くの学習者に親しまれるようになりました。のちに姉妹編の『みんなの日本語』が誕生し、さらに一般的に普及するようになりました。近年は新しいタイプの日本語教材が沢山生まれていますが、学習者や日本語教師から「やはり一番使いやすい」、「今使っています」などと仰っていただけることもよくあり、有り難く感じます。

HIDA が日本語教育を行っている国内の拠点としては、東京都足立区の東京研修センターの他、大阪府大阪市の関西研修センターがあります。研修センターは宿泊施設も兼ねており、寝食を共にして日本語を学びます。現在、技術研修生向け研修として、日本語学習を中心とした 6 週間のコースと 13 週間のコースを多数開講している他、経済連携協定 (EPA) により来日した看護師、介護福祉士候補者に対する 6 ヶ月の研修コースも実施しています。また個別の企業等からのリクエストによるオンデマンド型の日本語教育プログラムを実施する機会も増えています。日本企業がさらなる成長を求めてグローバルな人材を登用する流れの中、多様なバックグラウンドを持つ外国人社員への日本語教育、特に、現場で活用できる日本語教育のニーズは益々高まっています。

HIDA にほんご e ラーニング

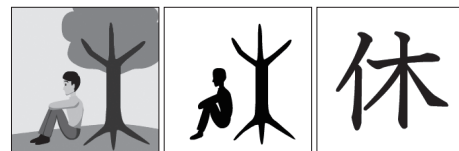
近年の幅広い日本語学習ニーズに応えるための取組として、2014 年 7 月に「HIDA にほんご e-learning」を開講しました。HIDA が開発した『新日本語の基礎』シリーズの教科書、各教科書に準拠した視覚・聴覚教材、そして HIDA が培ってきた教授法のエッセンスをパッケージ化したインターネット教



HIDA 東京研修センター



HIDA にほんご e-learning 「ビジネスにほんご」



HIDA にほんご e-learning 「Basic Kanji」

材です。単語や会話、文法解説には全て各国語(英語・中国語・タイ語・インドネシア語・ベトナム語)の説明がついており、学習者が一人で学べるようになっています。「ひらがなかなかな」、「Basic Kanji」、「にほんごビギナー」、「ビジネスにほんご」の 4 コースを開講しており、日本語をゼロから学習する方から中級の学習者の方まで、レベルやニーズに合わせて効率的に学習できます。『みんなの日本語』ユーザーの方にも適した教材です。「HIDA にほんご e-learning」サイトを是非一度ご訪問ください。

(<http://e-learning.hidajapan.or.jp/SITE/>)



海外編

スリランカ ケラニヤ



スリランカ日本語教育におけるケラニヤ大学

ケラニヤ大学

ディルルクシ ラトナーヤカ

ケラニヤ大学はスリランカの首都コロンボから10 kmほど離れた古都ケラニヤに位置する大学で、元々は僧侶のための大学でした。1875年の開学から、パーリ語、サンスクリット語、シンハラ語などの東洋の言語を盛んに学べる、スリランカで唯一の大学として古くから有名です。

日本語教育のはじまり

ケラニヤ大学で日本語が教えられ始めたのは1977年です。その時の学生はわずか男子学生二人だけでした。当時のシラバスを見てみると、単位科目としてではなく、単に興味があった学生が日本語を勉強していたようです。日本語が単位科目となったのは1980年ですので、日本語教育が始まってから来年で35年になります。開講当初から国際交流基金から派遣された専門家による日本語教育が行われており、日本語は他の外国語よりも人気があったと聞いています。

現在の日本語科

現在、日本語科は人文科学部現代言語学科に属しています。現代言語学科では日本語以外に5つの外国語が教えられています。日本語科で教えているのは、日本人講師3名、スリランカ人講師が7名です。

ケラニヤ大学で単位科目として日本語を

学ぶためには、高校から日本語を選択し、良い成績を収めなければなりません。今年4月からは日本語を主専攻として学べるようになり、現在19名が履修しています。また、この他に副専攻や選択科目の一つとして日本語を履修している学生が90名、自身の興味で聴講する学生が50～60名います。

日本語を履修している学生に日本語学習の動機を聞いてみると、「日本語が好き」、「日本文化が好き」、「日本のマナー、礼儀正しさが好き」という学生が圧倒的に多く、6割に上りました。日本に興味を持った主なきっかけは、「日本のテレビドラマ」(多くは『おしん』)や「漫画・アニメ」、「日本文化を紹介するテレビ番組」でした。

ケラニヤ大学の日本語のレベルは、スリランカで一番高いと言われています。日本語科で学ぶ一年生が使っている教科書は中級教材で、卒業までの4年間で上級レベルに達します。その他に、日本文化、日本文学、言語学、日本語教授法、異文化間コミュニケーション、観光学、翻訳技術なども学びます。学生の多くは、日本語能力試験N2に合格するレベルに到達しますし、中にはN1に合格する者もいます。また、学生が中心となった日本語クラブでは、日本語専攻の学生や日本語に興味を持つ学生が記事を書いて雑誌を出版したり、学生や教師の歓送迎会や文化祭を主催したりしています。

学生たち

日本語学科の学生は大半が女子学生で、その多くは卒業後の進路として教師を志望しています。現在スリランカの中学校や高校で日本語を教えている教師の80%以上はケラニヤ大学の卒業生です。昨年度のデータを見ると、卒業生の37%が日本語教師として働いています。また、22%が日本に留学し、17%が日系企業に就職しました。中には、旅行会社で働いたり、日本大使館で働いたりしている人もいます。今後は日本語教師だけではなく、旅行会社や日系企業などで働ける能力を身に付けさせることも日本語科の目標の一つです。

その他に、ケラニヤ大学はスリランカの日本語教育全般を様々な形でサポートしています。主に中等教育および高等教育機関のシラバス作成、教科書作成(『スリランカ高校日本語Aレベル教科書サチニさんといっしょ』)、試験評価などに携わっています。現在はスリランカの日本語教育関係者が自身の能力を高め、情報共有するための日本語教育研究室の設置を準備しています。また、来年からは日本語科の修士課程や教師養成コースを開講予定です。今後はスリランカ国内の中等教育、高等教育に携わる教師をあらゆる方向からサポートし、スリランカ全体の日本語教育を高めていきたいと考えています。



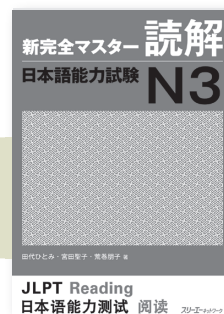
3年生と日本人講師(雑誌『Glamorous Japan』の発行を記念して)

教材紹介

『新完全マスター読解 日本語能力試験 N3』

田代ひとみ 宮田聖子 荒巻朋子 著

本文 153 頁 別冊 37 頁(予定) 1,400 円+税



読解の基礎力をつけるために

東京外国語大学 留学生日本語教育センター

田代ひとみ

本書は日本語能力試験 N3 に合格できる力をつけること、また、試験対策にとどまらない全般的な「読解」の力をつけることを目指しています。

日本語能力試験 N3 は初級の勉強を終えて、中級に入った学習者が対象です。初級から中級へ上がると、日本語学習に難しさを感じる学習者が少なくありません。なぜかという、初級では口頭でのコミュニケーションの学習が中心で、文章を読む機会はあまり多くないのに対し、中級からは書き言葉の日本語を中心に学習するようになるからです。そのため文章に慣れていない学習者は急に難しくなっただと感じるようです。そこで、読解練習を少しずつ取り入れていくことによって、日本語能力試験対策だけでなく、中級以降の学習にもスムーズに移行できるでしょう。

本書は右の表のような構成になっています。

第 1 部は文章を読むための基礎的な練習です。書き言葉の特徴、N3 の読解で注意したほうがよい点、文章が長くなっても読めるような工夫など、ごく簡単ですが、ポイントを紹介し、練習をつけましたので、はじめにやってみてください。本書の解説部分には独習する方のために英語と中国語の翻訳をつけました。

第 2 部、第 3 部ではさまざまな文章・情報検索の素材の形式に慣れるための練習をします。また、各問題には、初めに「読む前に」という質問があります。実際の日本語能

力試験にはない質問ですが、読解では読む前に内容に関連した話題について自由に考え、話し合ったほうがスムーズに文章が読めるので、おすすめします。

読解は学習者によって、難しく感じる程度が異なります。一般に、漢字圏出身の学習者は漢字から内容の類推ができるので、あまり難しいと感じていないようです。一方、非漢字圏の学習者は、難しく感じる人が多く、特に漢字にふりがながついていないと、それだけで読めないと思ってしまう人や、読むのに非常に時間がかかる人がいます。

したがって、本書ではふりがなを多くつけました。学習者の状況によっては、問題についている「語彙・表現」を参考にしたり、辞書の使用を認めてもいいでしょう。慣れてきたら、「語彙・表現」を見ずに読み、辞書を引かないで文脈から類推させます。知らなかった語彙・表現、漢字の正しい読み方は、漢字圏の学習者にもこの機会に覚えてもらうようにします。

特に漢字圏出身の学習者は漢字がわかるため、文章を丁寧に読まない人がいます。日本語の文章は省略があったり、文末表現などにさまざまな文法情報が含まれており、それに気づかないと、誤った理解をしてしまいます。また、学習者が自分の持っている知識から文章の内容を推測・予測するのはよいのですが、それだけにとらわれてしまうと正しく読めないこともあります。設問を通じて、実際に文章に書かれていることが正確に読み取れるよう指導する必要があります。

読んだ後に時間があれば、内容について意見を述べたり、知っていることを話し合っ

てみましょう。読みを深めることができます。

第 4 部には、数多くの問題があります。毎日少しずつでも問題を解くことによって、文章を読むことに慣れ、同時に多くの語彙や表現を覚えることができます。

別冊には、独習の方でもクラス学習でも正しい答えに辿り着けるよう、全ての問題の詳しい解説をつけました。経験が浅い先生でも、これに沿って説明していけば、本文の内容や、誤答解説もできるようになっています。

この問題集が試験対策、日本語読解力の向上に役立ち、文章を読む楽しさを知っていただけることを著者一同、心から願っています。

内容構成

実力養成編

第 1 部 基礎力をつけよう

書き言葉に慣れ、読むスピードを上げるための練習

第 2 部 いろいろな文章を読もう

説明文、エッセイなどいろいろな文章に慣れ、内容を理解するための練習

第 3 部 広告・お知らせなどから情報を探そう

広告やお知らせなどから必要な部分を探して読み取る、情報検索の練習

第 4 部 実戦問題

短文・中文・長文の内容理解問題と情報検索問題の練習

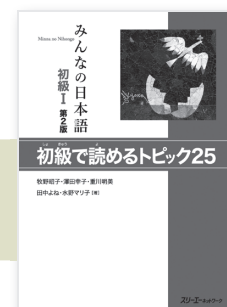
模擬試験

実際の試験と同じ形式の問題

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 初級で読めるトピック25』

牧野昭子 澤田幸子 重川明美 田中よね 水野マリ子 著

本文 67 頁 別冊 44 頁(予定) 1,400 円+税



初級から読む楽しみを

牧野昭子

外国語で長い文章を読むのはかなり難しい作業です。字面を追うのに一生懸命で、何が書いてあったのかよくわからなかったという経験はだれにでもあるでしょう。日本語学習でも同様のことが言えます。初級レベルでは会話が中心ですが、中級レベルになると急に読解中心になって、勉強が苦痛になってくる学習者も多いようです。

しかし、本を読み始めたら、おもしろくてやめられないという経験もあるはずで。興味深い内容なら、ページをめくる楽しさに時間を忘れてしまうこともあるでしょう。そのような楽しさ、面白さを初級レベルから経験しながら、読むことに慣れ、読む力を伸ばしていく読解教材を、というのが『初級で読めるトピック25』の制作動機でした。各課の読み物は『みんなの日本語 初級Ⅰ』の学習課に対応しており、本冊の学習に沿って、無理なく読み進めることができます。

この度、『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』が刊行され、学習項目や語彙が若干変更になったため、それに伴い、本書も全体的な見直しを行いました。そして、初版から10年以上も経ち、現代の状況や学習者の興味などに合わなくなった部分を書き改めたり、作り直したりしました。文字に慣れるとともに情報をつかむ練習のための「ウォーミングアップ」、内容を理解しながら読むための「本文」、楽しむための「プラスアルファ」という基本的な構成は変わりませんが、より充実し、使いやすいものになっています。

ここでは、本書をクラスで使う際のヒント

学習項目一覧 がくしゅうこうもくいちらん		
	題 だい	学習項目 がくしゅうこうもく
ウォーミングアップ 1	お国はどちらですか	ひらがな・カタカナ ～は ～です
ウォーミングアップ 2	ジュースをお願いします	どちら、いくら ～から ～まで
ウォーミングアップ 3	こうべまで いくらですか	～へ 行きます。【急行線】で いつ、～曜日
ウォーミングアップ 4	いつ 行きますか	～時から ～時まで ～時に
ウォーミングアップ 5	何時の 飛行機で?	
第6課	お花見	～を ～ます。【駅】で ～ます ～ませんか、～ましょう
第7課	もらいました・あげました	【人】に【物】を あげます/もらいます
第8課	町の生活・田舎の生活	形容詞 どうですか
第9課	日本が 好きです	～が 好きです/ 好きです ～から (理由)
第10課	美術館	～に ～が あります/います 上・下・中・外
第11課	お祭り	～人/～回/～台/～つ/～枚
第12課	沖縄旅行 クイズ 世界と日本	【形容詞】かったです/でした ～は ～より、どちらが～ ～が いちばん
第13課	宝くじ	～が 欲しいです/～たいです ～へ ～に 行きます

をいくつかご紹介します。まず、使う時期です。例えば、『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』の第15課が終わって、すぐ本書の15課を読むというのは大変です。学習者に知識の「溜め」がないので、読むことが苦しくなってしまうから、読ませる課は本冊の学習課より以前のものにします。

授業では、タイトルに関連した雑談などで方向付けをしてから、各自読む作業に入ります。未習の言葉は6ヶ国語(英語、中国語、韓国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語)の語彙訳を参照しながら読み、問題Ⅰをします。答えをクラスで確認しながら、その根拠となる部分を確かめてみてもよいでしょう。このレベルで精読は必要ありません。問題Ⅰがこなせる程度に読めていたらよいのです。余裕があれば、音読で読み方を確認します。文字の読みが不完全で、文の内容を誤解している場合もあるからです。さ

第14課	ビデオリーダー	【弾い】て います
第15課	みんなの 伝言板	
第16課	高校	～でも いいです。～では いけません
第17課	日本の 高校生に 聞きました	【動い】て います
第18課	想像の 動物	～は ～が ～。～で/～くて/～で
第19課	江戸時代	～なければ なりません ～なくても いいです
第20課	個人旅行? 団体旅行?	～ことが できます。～までに
第21課	ここは どこですか	意味は ～ことです
第22課	相模	～た ことが あります ～たり、～たり します ～く/～に なります
第23課	伊能忠敬の 一生	普通体
第24課	クイズ 地図の 記号	
第25課	クイズ 日本の 地理	
第26課	雨 降って、地 固まる	～と 言います。～と 思います
第27課	結婚???	～でしょう?
第28課	テレビ放送	名詞修飾【日本に あった テレビ】
第29課	テレビ番組	
第30課	東京スカイツリーと 浅草寺五重塔	
第31課	コーヒを 飲むと	～と、～とき
第32課	日本語で お願います	～て くれます
第33課	それ、英語?	～て もらいます
第34課	将来は…	～たら
第35課	悪い 人の 考え方	～ても

らに、問題Ⅱを使って、「話す」「書く」などの活動に広がります。本文を参考に、自分の経験や自国の情報を発信する能動的な活動が行えます。また、「プラスアルファ」はクイズや本文に関連した情報なので、本文の読解が早くできた人にさせたり、全員で楽しんだりすることができます。

上記の活動以外にも、初級後半の学習者への速読用、復習用教材として、あるいは複合的なコミュニケーション活動の素材として使えます。15課「高校」でしたら、各国の教育制度の調査報告、高校生活についてのインタビュー、共学とそうでない学校の利点と問題点のディスカッションなどが挙げられるでしょう。

このように、学習者にだけでなく、教師にとっても様々な楽しみの詰まった福袋のような本書を十分に活用していただければと思います。

なんでも情報 BOX

Books ほん

みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 CD 5枚セット	11 月発売予定 8000 円
みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 初級で読めるトピック 25	12 月発売予定 1400 円
みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 インドネシア語版	12 月発売予定 2000 円
新完全マスター読解 日本語能力試験 N3	12 月発売予定 1400 円
みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 CD 5枚セット	1 月発売予定 8000 円

Seminars セミナー

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』研修会

講師：坂本恵、大木理恵、田代ひとみ、中村則子（東京外国語大学留学生日本語教育センター）

日時：11 月 29 日（土）14:00 ～ 16:00
（13:30 受付開始）

会場：TKP 麹町駅前会議室（東京都千代田区麹町 3-2 麹町共同ビル 8 階）

定員：30 名（先着順。定員になり次第締め切ります。）

参加費：無料

問合せ / 申込み先：

スリーエーネットワーク講座係

102-0083 東京都千代田区麹町 3-4 トラス

ティ麹町ビル 2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：kouza@3anet.co.jp

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記の上お申し込みください。

主催：スリーエーネットワーク

兵庫日本語ボランティアネットワーク 2014 年 度研修会

『社会生活のいろいろな場面で上手にコミュニケーションできる力をつけるためには』 in 神戸

講師：清水崇文（上智大学言語教育研究センター、同大学院外国語学研究科教授）

日時：12 月 7 日（日）13:30 ～ 16:30
（13:00 受付開始）

会場：のじぎく会館 1 階ふれあいホール
（神戸市中央区山本通 4-22-15）

定員：40 名（先着順。定員になり次第締め切ります。）

参加費：1,000 円

（兵庫日本語ボランティアネットワーク
会員、学生：500 円）

申込み：後藤ひろ子（兵庫日本語ボランティア
ネットワーク）

FAX：078-741-3465

E-mail：hnnv.kobe@gmail.com

問合せ：090-4296-4648

共催：兵庫日本語ボランティアネットワーク、ス
リーエーネットワーク

新刊説明会『新完全マスター文法 日本語能力 試験 N4』 in 福岡

講師：友松悦子（『新完全マスター文法 日本語
能力試験』シリーズ 著者）

日時：2015 年 1 月 24 日（土）14:00 ～ 16:00
（13:30 受付開始）

会場：九州英数学館国際言語学院 本館 4 階 41
番教室

（福岡県福岡市中央区舞鶴 1-5-30）

定員：70 名（先着順。定員になり次第締め切ります。）

参加費：無料

問合せ / 申込み先：

スリーエーネットワーク講座係

102-0083 東京都千代田区麹町 3-4 トラス

ティ麹町ビル 2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：kouza@3anet.co.jp

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記の上お申し込みください。

地域で活動する日本語ボランティアのための研 修会 in 新宿

日時：2015 年 2 月 7 日（土）13:30 ～ 16:55
（13:00 受付開始）

会場：新宿文化センター 3 階小ホール
（新宿区新宿 6-14-1）

定員：200 名（先着順。定員になり次第締め切ります。）

参加費：無料

問合せ / 申込み先：

公益財団法人新宿未来創造財団 文化交流課

160-0022 新宿区新宿 6-14-1 新宿文化センター内

TEL：03-3350-1141 FAX：03-3350-4839

E-mail：bunka@regasu-shinjuku.or.jp

氏名、電話番号、グループで活動中の方はグループ名を明記してください。

*受付は 12 月 5 日（金）から開始になります。

主催：公益財団法人新宿未来創造財団

協力：アルク・スリーエーネットワーク・凡人社

●内容

研修会 1 『日本語初級 大地』を体験してみよう！—発話を増やす活動を中心に—

山崎佳子（『日本語初級 大地』共著者）

研修会 2 「どのように教えていますか？ “使える” ことばの教え方」

安藤栄里子（ミッドリム日本語学校教務主任）

恵谷容子（早稲田大学日本語教育研究センター
非常勤講師）

研修会 3 「日本語ボランティアとしての自分を 最大限に発揮しよう」

河野俊之（横浜国立大学教育人間科学部）

ハンナ・ユイカさん来社！

昨年の当社 40 周年記念作文コンテストで大賞を受賞されたポーランドのハンナさんが 7 月に来社され、おみやげに素敵なイラストをいただきました。有難うございました！



Ja-Net No. 71 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2014 年 10 月 25 日発行

●発行人 藤寄政子

●発行所 （株）スリーエーネットワーク

第一営業部 Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4

トラスティ麹町ビル 2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: sales@3anet.co.jp

http://www.3anet.co.jp/

●印刷 日本印刷（株）

© 2014 by 3A Corporation Printed in Japan

（禁無断転載）

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第 72 号は 2015 年 1 月 25 日発行です。